

ととにもぎやかなコンサート

2024年7月20日（土）
みなとみらいホール小ホール
12：30開場
13：00開演
14：30終演予定

ととにもぎやかなコンサート2024

企画・人首美佳子

主催・音楽団体サンアンドラック

舞台監督・鈴木英生(カノン工房)

協力・ナヤ・コレクティブ

普段から「警備員か！」という位に気を張っている障害児の親御さん。

そして小さい子や赤ちゃんを連れてゲッソリしている親御さん。

「親子で一緒にクラシックコンサートなんて難しい。クラシック？無理！」

そんな方に朗報です。

ホール内の光景はだいぶ愉快的事になっているのに

聴こえてくる音楽は本格クラシック！

誰もがクラシックを楽しんでいい。

全ての人にウェルカムの「にぎコン」。

今回はどんな奇跡が起こるのか楽しみですね！



エスプレッソ・コーラ著者 元！療育保育士ゆり子さま

プログラム

1. ジョルジュ・ビゼー Georges Bizet (1838-1875)

歌劇カルメンより “前奏曲”

2. ジョルジュ・ビゼー Georges Bizet (1838-1875)

歌劇カルメンより “ハバネラ”(フルートソロ ピアノ伴奏)

3.ヨハン・セバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach(1685-1750)

主よ人の望みの喜びよ

4.ヨハン・セバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach

無伴奏チェロ組曲第一番 プレリュード (チェロ独奏)

5.アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ Antonio Lucio Vivaldi(1678-1741)

四季より 夏 第三楽章

6.参加型コーナー

7.ジャコモ・プッチーニ Giacomo Antonio Domenico Michele Secondo Maria Puccini(1858-1924)

歌劇トゥーランドットより “誰も寝てはならぬ”(ピアノ独奏)

8.ヨハネス・ブラームス Johannes Brahms(1833-1897)

ハンガリー舞曲第五番

9. 野口幸太 Kota Noguchi(1980-)

さくらさくら狂想曲

10.シャルル・カミーユ・サン=サーンス Charles Camille Saint-Saëns (1835-1921)

動物の謝肉祭より 序奏と獅子王の行進曲

11.カンガルー(ピアノ独奏)

12.水族館

13.白鳥

14.終曲/フィナーレ

15.人首美佳子 Mikako Hitokabe(1985-) 編曲:山添隼人

とてもにぎやかなコンサート

1.歌劇カルメンより“前奏曲”

にぎコン最初の曲はビゼー作曲、歌劇カルメンより前奏曲。前奏曲とは歌劇＝オペラの始まりに、お話の幕開けとして最初に演奏される曲です。

ビゼーはわずか9歳でパリの音楽院に入学した早熟のピアニストでした。同じく早熟のピアニスト、サン＝サーンスとは友人だったそうです。ビゼーはその類稀なる演奏技量をもって富と名声を得ることに興味を示さず、オペラの作曲に力を注ぎました。残念ながら生前はあまり評価されず、36歳という若さで亡くなってしまいます。ビゼーの死後、カルメンは瞬く間に認められ、今では世界で最も上演回数の多いオペラとなっています。

2.歌劇カルメンより“ハバナラ”

カルメンよりもう一曲お送りします。キューバの首都ハバナを中心に始まった緩やかな2拍子の舞曲を模した“ハバナ風”という意味のハバナラ。劇中カルメンの登場シーンで歌われます。自由奔放に生きる美女カルメンの心情を半音階下降のメロディー(レ・レ♭・ド・シ・シ♭・ラ・ソ♯・ソ・ファ)が移ろうさまで表現しています。音が落ちていって恋にも落ちていく。題材を音楽で見事に表現しています。

ヨハン・セバスティアン・バッハ

ヨハン・セバスティアン・バッハは現在のドイツで活躍した音楽家です。主に教会のオルガン奏者として演奏したり、ミサのための曲を作曲したりしましたが、暮らしぶりはあまり豊かではなく、生活のために短い曲を作曲しては売るようなこともしていました。

しかしとても家庭的な面もあり、最初の妻との間に7人の子供を授かり、その妻が亡くなった後に結婚した後妻との間に13人の子供を授かりました。子供たちの多くは夭折してしまいますが、10人の子供が成長し、4人の息子が高名な音楽家となりました。生活が苦しかったのは子沢山だったことも1つの要因でした。当時ヨハン・セバスティアン・バッハとはその4名の音楽家の父としてしか知られていませんでしたが、息子たちが父から受け継いだ作品を弟子に教え、モーツァルトやベートーヴェンといった作曲家がヨハン・セバスティアン・バッハの作品から学んだため、音楽の父と呼ばれています。

3.主よ人の望みの喜びを

バッハ38歳のときの作品です。1723年7月2日のミサのために、オーケストラを伴った合唱曲として作曲されました。

17世期にヨハン・ショープが作曲した“Werde munter, mein Gemüte”の4分の4拍子の旋律をバッハが大胆に3拍子にアレンジした旋律と、バッハの書いた一度聞いたら忘れられない3連符の旋律が二つ同時に演奏されます。ミサの中でもミサ全体を支配する意味合いで置かれ、バッハの並々ならぬ自信がうかがわれます。今日では様々な楽器用の編曲がなされバッハを代表する1つになっています。

「今夜は誰も寝てはならぬ。この求婚者の名を解き明かすことができなければ住民は皆死刑とする」

トゥーランドットは家来を総動員して、王子の名前を知る者を探させているのです。

このお触れを聞いた王子が月明かりに照らされた庭で歌い始めます。

「誰も寝てはならぬ、姫、それはあなたも同じこと。

夜よ早く消え去れ！星よ色あせろ！夜明けには貴女を勝ち取ってみせる！」

王子の名前は「カラフ」。物語の結末は本番にて。

物語は「カラフ王子と中国の王女の物語」

イタリアのオペラ作曲家プッチーニが書いた最後のオペラです。

愛の勝利を確言する、ロマンチックでもあり力強い曲調で、テノール歌手の定番ソングになっています。

オーケストラの曲を一台のピアノで表現します。いろいろな楽器の表現が出てくるので、

どの楽器なのか想像しながらお楽しみください。(鈴木一彰)

8.ハンガリー舞曲第五番

30代以降の方には“さけるチーズ”のCM曲で通じるでしょうか？！

ブラームスがハンガリー出身のヴァイオリニスト レーニとともに演奏旅行に出かけた際にレーニからハンガリーの民俗舞曲を教えられ、その魅力の虜となった彼はロマ(=ジプシー)音楽の採譜をひたすら行いました。そして、いくつかの曲を組み合わせると21曲からなるピアノ連弾曲集「ハンガリー舞曲」を出版します。しかし、これが盗作であるとレーニから訴えられることになったのですが、ブラームスは「編曲」として出版していたため裁判に勝訴することができました。当時はピアノ一台で合奏ができる連弾がブームだったこともあり、曲集は大ヒット。

現在でもブラームスの代表曲の一つです。

9.さくらさくら狂想曲

原曲『さくらさくら』は、江戸時代後期にお琴の練習曲として生まれ、明治時代に歌詞が加えられ、日本の代表的な歌になりました。春の訪れとともに一斉に咲き誇る桜の美しさは、日本人の心に留まらず、世界中の人々をも魅了します。

僕たち日本人にとって桜は、新しい始まりや再生の象徴であり、一方で、その一瞬で散る儚さは、命のはかなさや恋愛のイメージにも通じ、平安時代から詩歌に詠まれています。

現代でもポップスで桜を題材にした歌はたくさんありますね。

桜はまた、怪談話や不気味な伝説にもしばしば登場し、その一例が金沢市の兼六園に伝わる「うらみ桜」の話です。

ここでは、美しい女中・小糸が主人の命令を拒んで井戸に身を投げ命を落とし、その井戸から桜の木が生えたとされています。こんな風に、桜という花は、僕たち日本人にとって、ただ美しいだけではない、様々な背景を仄めかす花です。

「さくらさくらの狂想曲」は、僕が小学校6年生の頃から遊び弾きしていく中で徐々にその形を成したピアノ曲です。

日本人にとっての桜のイメージを場面ごとに織り交ぜて、次々と変化していく桜の姿、そして最後にはピアノで狂想する「さくらさくら」をお楽しみください。(野口幸太)

シャルル・カミーユ・サン＝サーンス (以下 サンサーンス)

10歳でモーツァルトとベートーヴェンのピアノ協奏曲を演奏するリサイタルを催し、その神童ぶりはモーツァルトの再来と讃えられ、生涯のほとんどを演奏家・作曲家として生きた音楽家でした。頭脳明晰で音楽以外の分野にも明るく、天文学者、哲学者、考古学者、民俗学者としての顔も持ち合わせていました。

教職についていた際、後に著名なピアニストになる学生が「ピアノを学んでいる」と名乗ったのに対し、「大それたことを言うてはいけないよ」と答えたとあるなど、頭が良すぎる反面、気さくだけど辛辣で皮肉屋なエピソードの残る人物です。

サンサーンスの作風は、自己の感情を激しく吐露するようなものではなく、冷静に一步引いた視点で写術的に音を使用する描写性に富んでいます。

動物の謝肉祭

フランスのエスプリ香るおしゃれな皮肉。

1886年にプライベートな夜会のために作曲されました。全14曲からなるこの曲は天才サンサーンスのブラックユーモアの結晶。カーニバルの山車に人間ではなく動物達が乗って踊っているという設定なのですが、どうもそのタイトルからしておかしい。本日は14曲の中から一部を抜粋して演奏いたしますが参考までに全ての曲目を記載致します。

1.序奏と獅子王の行進曲 2.雌鳥と雄鶏 3.騾馬(らば) 4.亀5.象 6.カンガルー 7.水族館 8.耳の長い登場人物(驢馬=ろば) 9.森の奥のカッコウ 10.大きな鳥籠 11.ピアニスト 12.化石 13.白鳥 14.終曲

皮肉的な要素が強かったため、本人の意向で生前は白鳥以外の出版を固く禁止していたのですが、サンサーンスの死後に出版されると彼の一番人気の曲となりました。

今日、こども向けコンサートやドラマや映画の中でもよく取り上げられるこの組曲ですが、その際、皮肉の部分はほとんど抜きにして語られます。この曲が人気なのは獅子王の勇壮な調べや、カンガルーの飛び跳ねる動きなど、映像が目に見えてくるような魅力的な情景描写に溢れているためです。

10.序奏と獅子王の行進曲

わくわくドキドキするような音楽の幕が開けると、のっしのっしと堂々と歩くライオンの姿が見えてきます。異国への誘いとキャッチーなフレーズが印象的です。

11.カンガルー

本来は2台のピアノで演奏されます。ピョンピョンと飛び跳ねる様を効果音的に利用した短い曲です。途中で急に現れる緩やかな情景との緩急が今、ここではない場所を描いていることを強烈に印象付けます。

12.水族館

サン=サーンスの生きていた時代は現在のようなライティングがなされた明るい水族館ではなかったのだらうと思います。独特の浮遊感漂うこの曲は、水族館だけれども、どこか少しドキドキするような、ちょっと怖くて不安になるような、そんな心の動きを感じます。漂う水面。光の反射。水の中の泡。いろんな情景を思い浮かべてみてください。

13.白鳥

散々人の曲、自分の曲を皮肉って演奏し、仲間内で笑い転げて、さあ、そろそろ組曲も終わるころ、というときに突然白鳥が現れます。この曲はおふざけなしの完全オリジナル。あまりの美しい調べにみんなハットなったことでしょう。「白鳥」だけは生前から出版していました。現在ではチェリストの重要なレパートリー。優美で情景的な絵画のような音楽です。

14.終曲

ちらほらと今まで出てきた動物達のモチーフが現れてきます。いくぞ！ほら！次はこっちからだ！！なんていう舞台袖で控えている動物たちの声が今にも聞こえてきそうです。技巧的だけれど楽しいメロディーは一度聞いたら覚えてしまうことでしょう。楽しい音楽物語のフィナーレです。

15.ととにもぎやかなコンサート

にぎコンのアイコンを作っている際にととにもぎやかなコンサートという言葉の一文字づつに高低をつけて並べていると、次第にそれが楽譜に見えてきて最後のフレーズが出来上がり、そこから全体を作曲しました。歌詞はどんな人にもイメージがしやすいように、分かりやすく、歌いやすいことを意識し、ストーリー性を重視した言葉選びを行いました。

発達障害の診断のある息子は毎朝目が覚めると、まず、大声で泣き叫んでいました。

爽やかな朝とは程遠い日々。今となってはなぜそうしていたのかは分かりませんが、彼にとっては朝が来るということは嬉しいことではなかったのだと思います。

理由は変われど、“うれしくない朝”はこれからもあるでしょう。だけど“朝”を生きていかななくてはなりません。現在まで演奏される作品を残した作曲家たちにも“うれしくない朝”がきつとあったはず。苦しさ、嬉しさ、生きづらさを五線紙に書き記すことで生きていった作曲家たち。その思いが時代を超えて重なり合えば、たとえ言葉を持たなかったとしても、また一日力強く生きられるはず。生きて行ってほしい、と願う楽曲になりました。

編曲の山添さんが大変素敵なアレンジをしてくださいました。僭越ながら本日の最後に演奏させていただきます。(4.7.9.以外 人首美佳子)

出演者プロフィール

フルート 人首美佳子 (ひとかべ みかこ)

岩手県で生まれ、東京、大阪、ドイツ、横浜で過ごす。

14歳よりフルートを始め、高校二年生の時の思いつきで音大に進学。大学在学中よりクロスオーバーやクラブジャズを演奏するユニット内で活動。関東全県でライブを行い、楽曲がローカル局紀行番組テーマ曲として採用される。

現在は発達障害の診断を持つ男の子と、同じく診断を持つ女の子の二児の母。発達障害児育児のため4年間置き去りにしていたフルートを急に再開し、現在は自身の音楽教室にて発達凹凸児を含む生徒に毎回笑いのレッスンを行なっている。

どんな状況下でも自分を高めていくことができる、音楽と共にあることで幸せに生きていけるを自分自身にも掲げ、幅広く活動中。

パーソナルスタイリスト、子ども発達障がい支援アドバイザー

音楽団体サンアンドラック代表

神奈川県立外語短期大学付属高校卒業。武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業。

ピアノ 野口幸太

歌が好きで出かけ先の飲食店で有線がかかるとmyマイクを取り出して熱唱するような幼児だったとのこと。幼稚園の先生がピアノを弾く様子を真似し始めたのがピアノとの出会い。

武蔵野音楽大学、大学院でピアノを専攻し、卒業後は世界的プリマドンナ(オペラ歌手)

E.オブラスツォワ氏の伴奏者として共演させて頂いたり、同志で立ち上げたオペラグループ「labo opera絨毯座」の公演が「サントリー音楽財団(現芸術財団)第8回佐治敬三賞」を受賞した。

音楽教育の分野では、15年間、小学校の特別支援学級に勤務した経験を活かし、自身のピアノ教室でも、重度と診断される発達障害の子供の指導にも積極的に取り組んでおり、遠方からの来室生も多い。

言葉で伝えられない心を表すのが音楽。音楽を通して心の真の部分で触れ合うことで、豊かできげんで幸せな人生を創造することをモットーとする。

チェロ 杉田一芳

ヴァイオリン奏者の両親のもとで、北の大地で生まれる。3歳の頃にヴァイオリンをやってみるも興味をしめさず、6歳の頃に母の知り合いのチェロ奏者の所に遊びに行き、チェロと出会う。

桐朋学園大学音楽学部卒業後、同大学研究科修了。

現在、フリーランス奏者として活動する傍ら、音楽教室等で後進の指導に努める。

休日は息子と遊んだり、チェロの代わりに草刈り機と鎌を持って、畑をやったり、草刈りに追われる。趣味はカメラとドライブ。バス、鉄道、飛行機マニア。ご興味のある方は、私の名前をネット検索してみてください!笑

足利カンマーオーケスター 登録アーティスト

かずさジュニアオーケストラトレーナー

チェロを川崎昌子、毛利伯郎の各氏に、室内楽を東京クワルテット、毛利伯郎、藤原浜雄、三上桂子、北本秀樹、徳永二男、銅銀久弥、漆原啓子の各氏に師事。

ピアノ かずーん(鈴木一彰)

1999年神奈川県茅ヶ崎市に生まれる。小学3年生の時に、姉が弾いていた「エリーゼのために」がきっかけでピアノ教室に入会。

中学校では合唱コンクールや卒業式などでピアノ伴奏を務める。

その後、ピアノ以外にもギターやボーカル、コンピュータ音楽など様々な音楽を経験。将来は音楽の道で、この音楽の感動をたくさんの人に伝えたいという想いで、音楽の道を進むことを決意した。

一般大学の音楽学部に入学したが、周りの学生の音楽スキルや経験に差を感じ、音楽の道を断念。大学を中退し、社会人として介護やプログラミング、動画編集など、様々な職種を経験。

その後、遺言動画サービスの会社を立ち上げ、株式会社の代表を務める。

が、野口幸太氏との出会いをきっかけに、ピアニスト・ピアノ教師の道を再び志す。2024年4月に会社代表を辞任。

今日、社会人としての経験を得た上で、ピアノの感動を多くの人に届けるために幅広いジャンルで活動している。

神奈川県文化プログラム



本公演は
神奈川県マグカル展開促進補助金の
助成を受けて実施しています。

2024年とてものにぎやかなコンサートご協賛団体様
ありがとうございました。

きーまるRoom様

<https://keymaru-room.com/>



オカンの駆け込み寺

<http://okan-kakekomi.com/>



合同会社ぷらす様

